

日陰沢

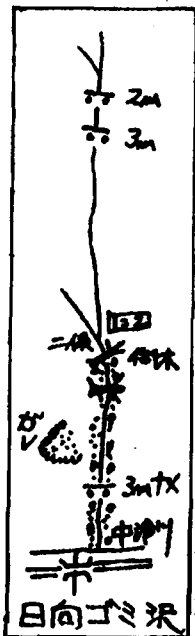
日陰ゴミ沢左俣左沢

1984年7月29日
L.

二俣から右沢の出合まで、快適な滝登りとナメを楽しむ。二俣で小休止後、左沢に入る。いきなりの4mの滝は、何なくパス。このあと、ナメ状の小滝が続き、すべて直登する。沢にヤブがかぶってきたあたりから尾根めざして左の支沢に入る。10分くらいのやぶごぎで尾根に出て、秋達沢右俣の下降に移る。

(記・)

[タイム] 二俣(11:15)→右沢出合(11:30)→尾根(12:15)



日向ゴミ沢(下降)

1984年7月21日
L.

尾根から5分も下ると、日向ゴミ沢に出る。源頭部は樹林帯であり、ヤブは少ない。

9時55分、二俣を確認して先に進む。2~3mの小滝をクライミングダウンし、10時20分再び二俣。

これより中津川出合までは、平坦なゴーロ状となる。名前のごとく陽があたって明るい、全く平凡な河原歩きのごみ沢であった。

(記・)

[タイム] 尾根(9:30)→中津川出合(10:40)

秋達沢右俣(下降)

1984年7月29日
L.

出合から最初の滝がのぞめた。この滝はなんなくパスできたが、先が期待できそう、意気あがる。7:30身仕度をととのえて出発。

ナメや小滝を越えて進むと、4mヒョングリの滝、中央を登る。ここらあたりからいよいよV字峡となってくる。そして3~6mの滝の連続。いずれもバランスやフリクションで越える滝である。帰りにここを下降することを考えると、少々心配になってきた。

8時、二俣。左俣に入る。2段4mとそれに続く小滝を越えて進むと、まもなく第二の連続帯。いずれも順層の滝で、直登できる。